別　添

県政世論調査結果まとめ

	調査項目		調査の目的等	調査結果の概要（上位3位まで及びそれ以外の参考値をex.で表記） 今回（R5）	%	前回（R2）	%	調査結果の評価（○）・今後の取組等（◆）
定点調査	**1　暮らし全般について**							
	問1	現在の暮らし向き	定点調査	満足層 不満足層 十分満足　14.1% 一応満足　56.7%	70.8 25.9	満足層 不満足層 十分満足　10.7% 一応満足　64.0%	74.7 22.6	○「十分満足している」、「一応満足している」を合わせた「満足層」は70.8%と7割を超え、過去の調査結果から概ね横ばいとなっている。
	問2	今後の暮らし向き		良くなっていく 変わらない 悪くなっていく	14.2 35.1 44.3	良くなっていく 変わらない 悪くなっていく	11.7 37.0 46.7	○「良くなっていく」が14.2%と、前回調査より2.5ポイント上昇した。新型コロナの影響が少なくなったことなどから、今後の暮らし向きに肯定的な思いが現れているものと推測される。
	問3	今後の暮らしで不安なこと ［対象：暮らし向きが悪くなっていくと回答した人］		公的サービス水準の低下 将来への備えが減少 日本経済が停滞、衰退 ex.新型コロナの影響	32.7 24.8 13.2 1.4	公的サービス水準の低下 将来への備えが減少 健康状態の悪化 ex.新型コロナの拡大	30.0 20.7 11.7 10.5	○新型コロナの影響が残っていることを不安に思う人は1.4%と、全項目の中で最低であり、前回調査に比べて、新型コロナに関する不安は大きく減少している。
	問4	今後の暮らしの力点		貯蓄 住生活 食生活	21.7 16.1 16.0	貯蓄 食生活 住生活	19.8 18.0 16.9	○「貯蓄」については、前々々回17.4%、前々回18.0%、前回19.8%、今回21.7%と毎回高くなってきている。ただし、60代以上では低くなっており、逆に「食生活」が高くなっている。
	問5.1	暮らしの中でのデジタル技術 ～デジタル技術で便利になった暮らしの場面		買物 移動 趣味	53.6 31.2 24.6	－	－	○今回新たに追加した項目である。最も便利になった場面は半数以上が「買物」と回答しており、新型コロナによりキャッシュレス化などが進み、便利になったと実感されたものと推測される。
	問5.2	暮らしの中でのデジタル技術 ～デジタル技術で便利にしたい暮らしの場面		医療・介護 行政手続 健康	40.8 31.6 24.8	医療・介護 行政手続 買物	43.7 25.4 24.1	○「医療・介護」40.8%、「行政手続」31.6%、「健康」24.8%が上位となっている。 ○「買物」は前回調査では3番目に高かったが、前問の「便利になった暮らしの場面」で最も高くなっており、この分野におけるデジタル技術の進展を裏付ける結果となった。 ◆「行政手続」については，今年度末までに主要手続のオンライン化を完了することとしているが、引き続き、原則オンライン化を推進していくとともに、キャッシュレスの推進、UI・UXの向上などに取り組んでいく。
時事項目	**2　新型コロナウイルス感染症について**							
	問6	現在行っている行動	新型コロナウイルス感染症対策や施策へ活用	体調管理 こまめな手洗い 外出時はマスクを着用 ex.こまめな換気	72.2 62.7 62.5 25.9	外出時はマスクを着用 こまめな手洗い 体調管理 ex.こまめな換気	93.3 74.2 64.3 33.6	○基本的な感染対策である「マスク着用」や「こまめな手洗い」は、前回調査と同様上位となっており、県民の行動様式として定着していると考えられる。 ○同じく基本的な感染対策である「こまめな換気」は25.9%と比較的少なく、十分に定着しているとはいえない状況である。
	問7	新型コロナに対する不安		感染する可能性 後遺症 重症化	51.9 40.4 40.3	感染する可能性 経済活動の停滞、不況 他県との往来	71.0 52.1 52.0	○自分や家族・知人が「感染する可能性」が51.9%で、前回調査から19.1ポイント下がっているが、引き続き上位となっている。 ○次いで「後遺症」40.4%、「重症化」40.3%と、感染後の健康不安も高くなっている。
	問8	不安を解消するために参考にする情報媒体		テレビ・ラジオ 市町のHP・SNS 新聞 ex.県のHP・SNS	70.4 35.3 34.9 31.5	－	－	○「テレビ・ラジオ」、「新聞」などマスコミの影響力の大きさが顕著に表れている。また、個人が発信する情報に比べ、「市町のHP・SNS」や「県のHP・SNS」など、公的な情報が参考にされやすい。 ◆引き続き、感染状況や効果的な感染対策、医療体制等について、県のHP・SNSによる積極的な情報発信を行う。
	3　G7広島サミットについて							
	問9	行動・心境の変化	ポスト広島サミットの施策へ活用	多くの人の来広を希望 世界情勢に関心 広島の魅力の再発見	34.8 27.9 26.1	－	－	○「多くの人の来広を希望」、「広島の魅力の再発見」などが上位となっており、広島でのサミット開催を通じて改めて広島が持つ多彩な魅力について考えていただくきっかけになったものと推測される。 ◆高まった広島への注目や関心を大きなチャンスと捉え、国内外からの更なる観光客の獲得、さらには、「選ばれる」県産品の創出など多様な広島ファンの増加に向けて、広島の魅力発信に取り組む。
	問10	サミットの機会を逃さず取り組むべきもの		世界平和に向けた議論の加速 世界の為政者の被爆地訪問への働きかけ 観光地としての魅力発信等	46.7 36.3 34.1	－	－	○「世界平和に向けた議論の加速」が46.7%、次いで「世界の為政者への被爆地訪問への働きかけ」が36.3%となるなど、平和に関連する内容が高い結果となっており、広島サミットにおいて力強いメッセージが発信されたことが寄与しているものと考えられる。 ◆引き続き、国際会議に積極的に参加し、核兵器と持続可能性の問題への賛同者拡大や核抑止に替わる安全保障政策づくりに向けた議論の進展につなげる。また、世界の為政者に、被爆の実相に触れ、核兵器の非人道性を十分認識していただくよう、広島訪問を呼びかけていく。
	問11	今後若者がチャレンジする上で必要なこと		異文化体験を通じた国際感覚 世界平和に関する興味・関心 地球規模課題に対する関心・意欲	51.0 48.9 37.9	－	－	○「異文化体験を通じた国際感覚」、「世界平和に関する興味・関心」、「地球規模課題に対する関心・意欲」が上位となっており、若者が国際感覚を磨くことに対する期待が大きいことが窺える。 ◆若者が、それぞれの夢や希望に「挑戦」できる基盤を築き、その様々な挑戦の後押しとなる取組を進める。
	4　子供・子育てに関する施策							
	問12	社会全体で応援する意識	ひろしま子供の未来応援プランに掲げる指標の達成度の参考	必要だと思う 必要だと思わない	90.8 2.8	－	－	○「必要だと思う」が9割以上であり、妊産婦や子供、子育て中の人を応援しようとする県民意識が根付いていると考えられる。 ◆社会全体で子育て中の人を応援しようとする意識を醸成するため、引き続き、妊婦や子育て家庭の不安や悩みに寄り添い、見守り、支援する仕組みであるひろしまネウボラを推進するとともに、地域の子育て支援者・団体等による子育てにやさしいサービスの定着を図る。
	5　健康に関する施策							
	問13	65歳以上の方の社会参画 ［対象：65歳以上の方］	第8期広島県高齢者プランに掲げる指標の達成度確認	農作業、家事従事等 何もしていない 企業等で働いている ex.ボランティアなど地域活動	35.8 32.9 22.3 15.8	農作業、家事従事等 何もしていない 企業等で働いている ex.ボランティアなど地域活動	48.3 25.0 17.4 15.2	○前回調査に比べ、「企業等で働いている」が4.9ポイント上昇しており、定年延長等により、就労を通して社会とのつながりをもつ高齢者は増加している一方で、「何もしていない」と回答した方は7.9ポイント上昇しており、退職後に社会との接点が薄くなり、孤立しやすい環境にあると考えられる。 ◆社会参加をしている者は「安心感」や「生きがい」を感じる割合が高くなることから、高齢者が孤立することなく地域活動などに参画しつづけられるような機会づくりを行う市町の取組を支援する。
	6　地域共生社会に関する施策							
	問14	障害のある人が困っている時の手助け	ひろしまビジョンアクションプランに掲げる指標の達成度確認	ある ない	68.9 27.1	ある ない	67.0 29.6	○手助けをしたことが「ある」が1.9ポイント上昇しており，障害者への理解が一定程度進んでいると考えられる。 ◆「あいサポート運動」を推進し，研修等による障害に対する理解促進や，ヘルプマークやヘルプカードの配布，あいサポート協力企業へのメルマガ発信等による啓発活動を推進し，県民意識の高揚を図る。

	調査項目		調査の目的等	調査結果の概要（上位3位まで及びそれ以外の参考値をex.で表記）				調査結果の評価（〇）・今後の取組等（◆）
				今回（R5）		前回（R2）		
ひろしまビジョン 施策領域	問15	人権に関する意識 （人権が尊重されているかどうか）	広島県人材啓発推進プラン（第5次）に掲げる指標の達成度の参考	肯定層 どちらとも言えない 否定層	40.5 34.8 15.9	肯定層 どちらとも言えない 否定層	42.9 27.4 16.5	〇人権が尊重されていると感じるかの「肯定層」、「否定層」の割合は、ともに大きな変化は見られない。 ◆「広島県人権啓発推進プラン」に基づき、人権尊重の理念が広く県民に普及し理解されるよう、県民参加型イベントや企業向け研修会などの各種啓発活動等の取組を推進する。
	問16	男女の地位の平等感	わたしらしい生き方応援プランひろしまに掲げる指標の達成度の参考	男性優遇 平等 女性優遇	70.7 9.9 5.0	男性優遇 平等 女性優遇	67.2 14.7 3.9	〇「平等」と回答した割合が、「社会全体」、「家庭生活」、「職場」、「学校教育の場」、「政治の場」、「法律や制度上」、「社会通念・慣習・しきたりなど」のすべての項目で、前回調査より減少した。 ◆「わたしらしい生き方応援プランひろしま」に基づき、男女の平等感に対する県民意識の向上や、性別役割分担意識の解消に向け多様なテーマを設定したワークショップの開催などの取組を進める。
	問17	性別役割分担意識 （夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるという考え方）		賛成 反対	26.0 58.6	賛成 反対	32.3 51.1	〇「夫は外で働き，妻は家庭を守るべきである」という考え方について，「賛成」は6.3ポイント減少、「反対」は7.5ポイント上昇し、性別役割分担意識の解消が進んでいる。 ◆「わたしらしい生き方応援プランひろしま」に基づき、男女の平等感に対する県民意識の向上や、性別役割分担意識の解消に向け多様なテーマを設定したワークショップの開催などの取組を進める。
	7 治安・暮らしの安全に関する施策							
	問18	近年の治安状況 （治安良好と感じる県民の割合）	ひろしまビジョン、「減らそう犯罪」第5期ひろしまアクションプランに掲げる指標の達成度確認	良いと思う 良いと思わない	88.4 11.6	良いと思う 良いと思わない	86.9 10.3	〇昨年、刑法犯認知件数が20年ぶりに増加に転じたにもかかわらず、居住地域の治安が「良いと思う」が88.4%と、前回調査から1.5ポイント上昇し、平成26年の調査開始以降最も高い数値となった。体感治安の向上には犯罪件数の減少以外に、これまで推進してきた県民総ぐるみ運動の各種取組の効果が現れつつあるものと推測される。 〇治安が「良いと思わない」理由として、「規範意識の低下」、「防犯設備が不足」が引き続き上位になっていることからも、体感治安の向上のためには、犯罪抑止のほか、規範意識の向上などの意識づくりや防犯設備の普及などの環境づくりを推進する必要がある。 ◆ひろしまビジョンや「減らそう犯罪」第5期ひろしまアクション・プランの指標である「治安良好と感じる県民の割合90%以上」の達成に向け、重点項目に掲げる県民が不安に感じる犯罪の抑止や子供・女性・高齢者等の安全確保などの取組を強化するとともに、県担当部局や市町と協働・連携し、規範意識の向上施策や防犯カメラの普及促進など安全安心なまちづくり施策を更に推進していく。
	問19	治安に対する不安理由 [対象：治安良好と感じない人]	県民意識の経年変化を把握し、「減らそう犯罪」県民総ぐるみ運動へ活用	規範意識の低下 防犯設備が不足 地域の連帯感が希薄	54.3 34.0 31.3	規範意識の低下 防犯設備が不足 子供や女性への声かけ、ちかん	41.2 39.4 37.6	
	問20	相談窓口で知っているもの	ひろしまビジョンアクションプランに掲げる指標の達成度確認	広島県警の相談窓口 県・市町の児童虐待等の相談窓口 県・市町の犯罪被害者相談窓口 ex.性被害ﾜﾝｽﾄｯﾌﾟｾﾝﾀｰひろしま	39.1 22.6 19.1 9.6	広島県警の相談窓口 県・市町の犯罪被害者相談窓口 県・市町の児童虐待等の相談窓口 ex.性被害ﾜﾝｽﾄｯﾌﾟｾﾝﾀｰひろしま	32.9 27.0 20.3 7.4	〇ひろしまビジョンアクションプランの指標としている「性被害ワンストップセンターひろしま」の認知度については、前回調査から2.2ポイント上昇している。属性別に見ると、特に18～39歳の若年層の認知度が20%を超えている。 ◆犯罪被害者等への支援は、市町、関係機関等が連携して実施することが重要であり、いずれかの窓口を知って、相談することで必要な支援に繋がると考えるため、引き続き、全体の認知度が上昇するよう広報啓発に努める。 ◆若年層の性被害防止に関する取組の一つとして、引き続き、学校を通して、児童・生徒等の若い世代への相談窓口の周知を図る。
	問21	ドメスティックバイオレンス（DV）	DV被害の経年変化を把握し、DV防止施策へ活用	受けたことがある 受けたことがない	4.0 96.0	受けたことがある 受けたことがない	10.4 87.1	〇ひろしまDV防止・被害者支援計画（第4次）に掲げる指標に合致させるため、今回調査においてはDVを受けた時期について、「直近1年間で」という条件を付したことから、前回結果とは単純に比較はできない。 〇DVを1年以内に「受けたことがある」は4.0%であるが、配偶者暴力相談支援センターに寄せられるDV相談件数は前回調査時（R2）以降高止まりの傾向が続いており、DV被害自体が減少しているというよりは、今回調査では、過去に被害を受けた人が計上されなくなったことが要因のひとつと考えられる。 〇「どこにも相談しなかった」が前回調査と同様に上位であるが、「県こども家庭センター・配偶者暴力相談支援センター」が前回調査から上昇しており、DV相談機関として認知は少しずつ進んでいると考えられる。 ◆今後も、ひろしまDV防止・被害者支援計画（第4次）に基づき、DV予防教育や啓発の推進、相談しやすい環境の整備に向け取組を進める。
	問22	相談先 [対象：DVを受けたことがある人]	ひろしまDV防止・被害者支援計画（第4次）に掲げる指標の達成度確認	どこにも相談しなかった 親族・友人・知人 県こども家庭センター等	70.6 23.4 6.0	どこにも相談しなかった 親族・友人・知人 民間の機関	58.0 41.5 3.0	
	問23	公的機関に相談しなかった理由 [対象：親族・友人・知人に相談した人、どこにも相談しなかった人]		自分さえ我慢すればやっていける 相談してもむだだと思った 相談するほどのことではない ex.どこに相談してよいかわからない	48.6 42.1 34.4 6.5	自分さえ我慢すればやっていける 親族や自分で解決できた 相談してもむだだと思った ex.どこに相談してよいかわからない	31.5 31.1 29.4 8.7	
	問24	食品の安全確保対策～店舗対応への不満 [対象：店舗責任者の対応に納得いかなかった経験者]	食品の安全に関する基本方針及び推進プランに掲げる指標の達成度の参考	説明が不十分 責任者が対応しなかった 謝罪がなかったから	38.3 35.8 34.2	－	－	〇食品の異物混入等において、店舗対応に納得がいかなかった理由として「説明が不十分」、「責任者が対応しなかった」、「謝罪がなかったこと」が上位となった。 ◆今回確認できた苦情につながる具体的な要因の解消に向け、講習会や監視指導を通じて食品事業者に対して指導・助言を行っていく。
	8 環境に関する施策							
	問25	環境保全活動への関心 ～取り組んでいること	ひろしまビジョンアクションプランに掲げる指標の達成度確認	買い物時のマイバッグ 節電や節水 プラスチック製容器の削減 ex.マイカー利用の自粛	83.6 68.5 51.6 33.2	買い物時のマイバッグ 節電や節水 エコドライブ ex.マイカー利用の自粛	85.9 64.7 49.6 21.8	〇取り組んでいることとして、「買い物時のマイバック」、「節電や節水」は、前回調査と同様の水準である。一方、「プラスチック製容器の削減」、「マイカー利用の自粛」などの上昇が見られ、県民の意識変化が窺える。 〇今後取り組んでいきたいこととして、「環境家計簿の作成」、「環境にやさしい商品等の購入」、「地域イベントへの参加」などが上昇傾向にあり、県民の環境に対する意識醸成が進んでいると考えられる。 ◆ひろしま地球環境フォーラム等と連携し、効果的なイベントを企画・実施し、県民に対し普及啓発を行い、環境保全活動に対する更なる意識付けを図る。
		環境保全活動への関心 ～今後取り組んでいきたいこと	県民意識の経年変化を把握し、環境施策へ活用	環境家計簿の作成 環境にやさしい商品等の購入 地域イベントへの参加	48.8 48.6 47.6	マイカー利用の自粛 環境家計簿の作成 環境にやさしい商品等の購入	42.2 39.4 39.4	
	問26	食品ロスの削減	今後策定予定の食品ロス削減の取組方針の指標設定の参考	取組をしている 取組をしていない	75.3 22.6	－	－	〇国は2025年（R7）までに、「食品ロス問題を認知して削減に取り組む消費者の割合」を80%とすることを目標にしており、令和4年度調査では76.9%となっている。 ◆今回の調査結果も踏まえ、食品ロス削減に向けた取組方針を策定し、県民が食品ロス問題を自らの問題と捉え、具体的な行動に繋がるよう、食品関係者等と連携した啓発等の取組を推進する。
定点調査	**9 今後の重点施策の要望**							
	問27	今後の重点施策の要望（3項目以内選択）	定点調査	医療・介護 子供・子育て 防災・減災	47.4 35.0 25.5	高齢者対策 社会福祉・社会保障対策 治山・治水・河川・砂防対策	24.4 20.4 20.0	〇「医療・介護」が47.4%、次いで「子供・子育て」35.0%、「防災・減災」25.5%となった。 〇最重要と考える施策としては「医療・介護」と「子供・子育て」で全体の約4割を占めている。 ※今回調査から、ひろしまビジョンの施策領域に沿った項目に変更
		今後の重点施策の要望（最重要；1項目選択）		医療・介護 子供・子育て 教育	21.3 18.0 7.8	高齢者対策 社会福祉・社会保障対策 子育て支援対策	11.0 8.8 8.5	